

福知山市農業委員会

「地域計画」実現に向けて
地区営農推進協議会の活動強化



「農地農政相談」で農業委員・推進委員と市・JAが今後の進め方を意見交換（4月10日）

地 域	会 場	地 域	会 場
旧町	JA京都福知山支店	下六人部	上松公民館
庵我	庵我会館	上川口・金谷	上川口会館
下川口	下川口会館	三岳	三岳会館
雀部・遷喬・佐賀	日新地域公民館	金山・雲原	北陵地域公民館
下豊富	JAにのくに福知山支店	三和	三和支所
上豊富	上豊富会館婦人の家	夜久野	夜久野支所
上六人部	上六人部会館	大江	大江支所
中六人部	中六人部ふれあいセンター		

「農地農政相談」の各地域の会場

農区長（農業委員会補助員に委嘱）と協力して「地域計画」の策定を推進。3月末までに予定ど

おり市内全12地区で地域計画の公告が完了した。同市は、本年度から、地区推を「地域計画のプ

ラッシュアップに向けた協議の場」と位置づけ、計画の実現に向けた取り組みを支援していく。

農業委員会は、毎月10日に農業委員と推進委員が地区別に開催する「農地農政相談」と「地区推」の2本柱で農地利用最適化活動を着実に展開していく。

【滋賀】「スケールは小さくても生産から販売まで一貫して行いたい」と勤務していた会社を退職し、2024年3月にイチゴの栽培を始めたのは、野洲市の野谷曜司さん（30）＝写真＝だ。



や、予想よりイチゴの成熟が早く収穫の判断が遅れ、買い手さんから指摘を受けることもあった」と難しい一面を振り返る。

「生産から販売まで一貫で」
脱サラしイチゴ農家に転身

野谷さんは「一時には出荷準備が深夜になったこと

野洲市 野谷曜司さん

熱心に肥料づくりに取り組む参加者

で販売を開始した。美しい自然はもちろん、他にも何か子どもたちに残せないかと考える吉川さん。「次の挑戦は

マに、地球環境や健康に配慮した有機農業の大切さと、乳酸菌で米ぬか・油かす・魚粉などを発酵・分解させる肥料「保田ぼかし」について

さらに、参加者は「保田ぼかし」づくりを実習し、安全良質でおいしい農作物に欠かせない肥料づくりを体験した。

イチジクの枝で土壌改良

二酸化炭素還元にも貢献

羽曳野市 吉川幸一郎さん



バイオ炭で品質向上や収量増加が見込めると吉川さん

【大阪】「農業における環境負担を減らしたい」と話すのは、羽曳野市の約1・1畝の農地でイチジクやサツマイモなどを栽培するハッピーファームの吉川幸一郎さん（42）。

現在、1年間で約1400kgのバイオ炭を作り、約2・8畝の二酸化炭素を削減している。昨年には炭を活用して栽培したサツマイモを「福めぐり」のブランド

稲美食と農を考える会

「稲美有機農業塾」がスタート

【兵庫】稲美食と農を考える会（田中茂会長）は4月9日、稲美町のJA兵庫南営農総合支援セ



安全良質でおいしい農作物に欠かせない肥料づくりを体験した。主催者の田中会長は「講義・実習セットで全12回の学習を通して、持続可能で消費者に信頼される有機農業を推進したい」と抱負を語った。

青年
委員
奮闘中

▷32

大淀町 山下朱美さん

【奈良】大淀町で農業に優しい農業に取り組む委員を務める山下朱美さん（46）は、野菜を中心に多品目栽培を行っている。夫の手伝いをきっかけに就農し、農業や化学肥料の使用を抑えた環境

守り、担い手につないでいく仕事だという話を聞き、興味を持っていたところ、農業委員会から声が掛かり、地域農業を守りたいとの思いから立候補したという。

農地パトロールを積極的にに行い、遊休農地の発見に努めるほか、農業委員会が取り組む野菜の作付け・収穫などの遊休農



地解消活動による啓発活動を通じて、農地の有効活用につなげることにやりがいを感じている。

山下さんは「最初は農業委員として不慣れだった

農地の有効活用にやりがい
パトロール、遊休農地解消に力

近畿
畿

近畿総局
京都府農業会議

京都市上京区出水通油小路東入
丁子風呂町104-2 府庁西別館内
075・441・3660

滋賀県支局
077・523・2439

大阪府支局
06・6941・2701

兵庫県支局
078・3391・1221

奈良県支局
074・222・1101

和歌山県支局
073・432・6114

秋竹氏が新会長に就任

和歌山県農業法人協会が総会

【和歌山】県農業法人協会は5月2日、和歌山市で通常総会を開催。会員や関係者など30人が参加した。

当日は役員改選や本年度の事業計画など4議案を上程。議案審議の結果、(株)早和果樹園の秋竹俊伸代表取締役社長が新たな会長に就任した。



就任のあいさつをする秋竹会長

また、(株)ビオ・ランド紀の川の関弘和代表取締役、(農)古座川ゆず平井の里の倉岡有美代表理事が副会長に就任した。

総会終了後、県農業会議と共催で経営改善セミナーを開催。雇用就農資金や和歌山県における新規就農・担い手対策施策、日本農業法人協会の概要などについて研修した。

新会長に就任した秋竹会長は「新副会長両名と協力しながら、協会の運営に尽力していく」と語った。

(田村健伍)